

立入防止柵改良工の作業手順 (動物進入対策)

制定・改定日 2022.2.18

項目	内容	留意事項
準備工	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容の確認 作業人員の確認 保護具の点検 使用機械、資材、工具の点検 	<ul style="list-style-type: none"> 指示書の内容確認 安全打合せ書による。 安全チェックシートの活用。
既設立入防止柵撤去	<ul style="list-style-type: none"> 既設立入防止柵(有刺鉄線)を撤去する。(基礎ブロックを含む。) 有刺鉄線を番線カッターで支柱から切り離す。 支柱の根本にワイヤーをかけ、クレーンにて徐々に引き抜く。 バックホー並びに人力により、基礎撤去後の整地をする。 人力及びクレーンにてトラック積みした発生材は、指定仮置き場へ運搬する。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な保護具の着用。 有資格者による作業。 引き抜き時、クレーンの操作は慎重に行う。 バックホーの旋回範囲内に立ち入らない。
鋼管杭設置	<ul style="list-style-type: none"> 基礎鋼管杭を杭打ち機にて設置する。(2m間隔) 油圧の杭打ち機と、空圧の杭打ち機とを使用する。 施工可能な限り油圧の杭打ち機を使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 油圧杭打ち機の作業範囲内に立ち入らない。
鋼管杭設置	<ul style="list-style-type: none"> 設置済みの基礎鋼管杭の中にモルタルを詰め、その中に支柱を設置する。 支柱の固定を確認した後、金網を支柱に取り付ける。 専用Uボルトとナットにて、支柱に取り付けた後、上下金網の連結を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 支柱の垂直立て込み確認。 金網取付が終了しない区間は、仮設物にて、立入防止対策を講じる。
発生材の片付け	<ul style="list-style-type: none"> 仮置き場へ集めた発生材は、金属部と筋入りコンクリート部とに分別する。 基礎コンクリートから支柱を切断する。 発生材は、それぞれ産業廃棄物として、適切な処理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> クレーン等の作業半径内は十分注意し有資格者による作業を行う。 吊り荷の下へは絶対に入らない。 必ず二人以上で作業を行う。 切断作業時、火災防止に努める。(消火器とバケツの設置)
後片付け	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具、機材、余った材料を片付け、最後に整地と清掃を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具等は、現場に置き忘れが無いように確認する。

作業編成(標準)		機材		資材		安全器具・保護具	
						ヘルメット	
						反射(自発光)チョッキ	
						警笛	
						保護メガネ	
						防塵マスク	

※現場で作業手順を変更する場合は作業を中止し、作業責任者からメンテ名古屋担当者に報告・相談する。

■注意事項(共通の指導事項)

- 1.機械作業は、有資格者が操作を行う。
- 2.吊り荷の下へは絶対に入らない。
- 3.作業機械の旋回範囲を確認し、立ち入らない。見張り員の設置と合図。
- 4.側道作業は、一般車両の通行に配慮する。場合によっては、道路使用許可を得る。
- 5.適切な材料管理に努める。(シート掛け、囲い、表示)
- 6.手持ち式振動工具については取扱を十分理解し、使用する。
- 7.一人作業の禁止**